環境エネルギー部みどり自然課

日時 2019. 08. 09
場所 山形県庁1001会議室

やまがた緑環境税の概要について

【報告の内容】
1 やまがた緑環境税導入の経緯
2 やまがた緑環境税活用事業と事業実績
3 今後の取組み方向について

1 やまがた緑環境税導入の経緯①

山形県の森林の危機

スギを主とする人工林

手入れ不足により荒れてしまった人工林

マツ林や広葉樹林などの里山林

マツ枯れやナラ枯れ被害など病虫害被害を受けて枯れてしまった森林

森林の持つ公益的機能の低下

1 やまがた緑環境税導入の経緯②

県民生活に大きな影響を及ぼす恐れ

やまがた緑環境税の導入（H19年4月）

○ 緑環境税の趣旨
- 森林は県民共有の財産
- 将来にわたり森林の有する公益的機能の維持増進と持続的な発揮
- 森林を健全な姿で未来に引き継ぐ

○ 税制度の検討
- 施行後5年を目途として検討（H23,H28）

2 緑環境税活用事業と実績

県民みんなで支える森づくり

Ⅰ 環境保全を重視した森林施策の展開
① 環境保全を重視した森林整備の推進
② 森林資源の循環利用の促進

Ⅱ みどり豊かな森林環境づくりの推進
① 県民参加の森づくりの推進
② 自然環境保全対策の推進

Ⅲ 豊かな緑を守り育む意識の醸成
① 森林・自然環境学習等の推進
② みどりを育む意識の醸成
③ 広報・普及啓発（やまがた緑環境税評価・検証委員会）

Ⅰ 環境保全を重視した森林施策の展開

① 森林整備の推進 【人工林整備】

人工林（主にスギ人工林）

生育不良・気象害大

＜針広混交林型＞
広葉樹との混交を促進するために強度の間伐等を実施

～自然生態系が豊かで公益的機能が高度に発揮される森林へ～

スギの生育適地

＜針葉樹林維持型＞
適正に維持・管理するための間伐や森林作業道等の設置

～人工林として長期間維持・管理することで公益的機能が持続的に発揮される森林へ～

※ 手入れの際は、県が所有者と林地の転用禁止などを盛込んだ協定や同意を結びます。

Ⅰ 環境保全を重視した森林施策の展開

① 森林整備の推進 【里山林整備】

里山林（主にマツや広葉樹）

病害虫被害大

＜里山林再生＞
マツ枯れやナラ枯れにより被害を受けた木を伐倒処理

～多様な樹種や年齢で構成する、緑豊かな明るい里山林へ～

景観上重要

＜森林景観整備＞
下刈りやつる伐り、間伐を実施

～景観悪化森林の解消や野生生物との緩衝帯の設置～

※ 手入れの際は、県や市町村が所有者と林地の転用禁止などを盛込んだ協定等を結びます。

Ⅰ 環境保全を重視した森林施策の展開

② 森林資源の循環利用の促進

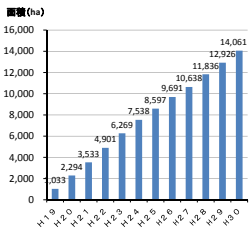
1 人工林（森林資源循環利用促進事業）
（間伐等で発生する低質材を、合板や木質バイオマス燃料等に利用するため搬出支援）

2 広葉樹（広葉樹林健全化促進事業）【H22年～】
（ナラ枯れ被害木の伐採によるナラ林の若返りと、チップ等へ活用するための搬出支援）

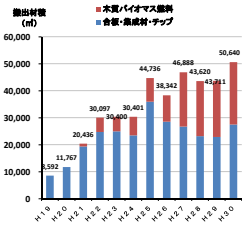
3 再造林（森林資源再生事業）【H27年～】
（森林の再生に向け、再造林の経費を支援
再造林実績（ha）H27:40,H28:27,H29:48,H30:27

Ⅰ 環境保全を重視した森林施策の展開

ハード事業の実績推移



①森林整備実績の推移



②森林資源循環利用年度別実績

Ⅱ みどり豊かな森林環境づくりの推進

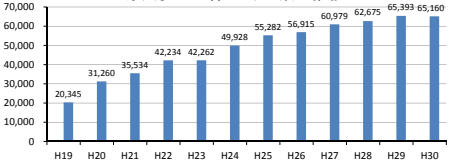
① 県民参加の森づくりの推進

地域住民 ボランティア団体 → (1) みどり豊かな森林環境づくり推進事業 ⅰ）県民提案型

市町村 → (2) みどり豊かな森林環境づくり推進事業 ⅱ）市町村提案型 ⅲ）里山再生アクションプラン型

企業 → (3) やまがた絆の森づくり推進事業

県民参加の森づくり人数の推移



Ⅱ みどり豊かな森林環境づくりの推進

① 県民参加の森づくりの推進

(1)みどり豊かな森林環境づくり推進事業（県民提案型）

成果

公募団体数の推移
H19 48団体 → H28 106団体

参加者数
H19 6千5百人 → H28 2万7千人 → H30 2万人

※ H29～事業形態変更

(2) みどり豊かな森林環境づくり推進事業（市町村提案型）

成果

参加者数
H19 9千人 → H28 1万9千人 → H30 2万3千人

※ H29～事業形態変更

Ⅱ みどり豊かな森林環境づくりの推進

① 県民参加の森づくりの推進

(3) やまがた絆の森づくり推進事業

CO2森林吸収量認証書

成果
H21 9企業 → H30 38企業

② 自然環境保全対策の推進

Ⅲ 豊かなみどりを守り育む意識の醸成

① 森林・自然環境学習等の推進

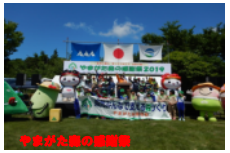
やまがた木育の推進【H29～】

木育教材の開発、配布

Ⅲ 豊かなみどりを守り育む意識の醸成

資料 1-1

② みどりを育む意識の醸成



やまがた緑環境税広報 新聞掲載

Ⅲ 豊かなみどりを守り育む意識の醸成

③ 広報・普及啓発 と 評価・検証

3 今後の取組み方向について①

課題｜依然として多くの荒廃森林が存在

⇒ 荒廃森林の早急な解消が必要

※民有林面積は、山形県の全森林面積の約47%

民有林面積 31万5千ha
人工林（主にスギ） 12万4千ha
里山林（主にマツや広葉樹） 19万1千ha

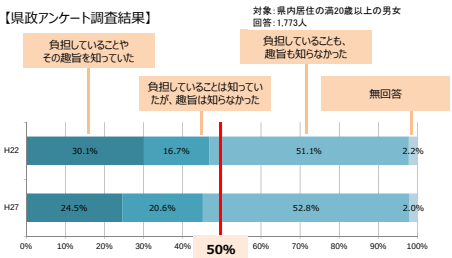
手入れが不十分な森林 13万2千ha
3万9千ha（推計）
9万3千ha（推計）
荒廃森林

- 平成19～28年間の10年間で11，836haを整備
- 平成29～38年間の10年間で11，600haを整備予定

3 今後の取組み方向について②

課題｜やまがた緑環境税の認知度が低いまま

⇒ 認知度向上の取組みが必要

【県民アンケート調査結果】

対象：県内居住の満20歳以上の男女
回答：1,773人